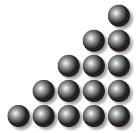




歯科铸造用コバルトクロムモリブデン合金



BIO CAST - Co

Co-Cr ALLOY FOR DENTAL CASTING

バイオキャスト インゴット/ショット

〔厳守事項〕

铸造時の溶湯の飛散による人体の損傷を防ぐ為、必ず遮光メガネと顔面保護面を装着すること。

- ① 金属床設計
- ② 複模型印象 ……デンケン・ハイデンタル「ハイシリコーンⅡ（複模型用シリコーン印象材）」又は「ハイアガーⅢ（複模型用寒天印象材・リン酸塩系用）」を御使用ください。
- ③ 埋没材注入 ……御使用のリン酸塩系埋没材を参照してください。
- ④ 耐火模型取り出し ……御使用のリン酸塩系埋没材を参照してください。
- ⑤ 乾 燥 ……100℃のオープンで約50分間乾燥してください。
- ⑥ ワックスパス ……約120℃のワックスに2秒位浸漬してください。
凹部分に残ったワックスは直ちにタオル等で吸い取ってください。
- ⑦ ワックスパターン ……デンケン・ハイデンタル「スティップルワックス」「シートワックス」「既製ワックスパターン」をご使用ください。
- ⑧ スプルー植立 ……デンケン・ハイデンタル「キャストイングワックス」をご使用ください。
- ⑨ 埋 没 ……リン酸塩系埋没材を御使用ください。
- ⑩ 加 熱 ……御使用のリン酸塩系埋没材の使用マニュアルを参照してください。
- ⑪ キャストタイミング ……下表を参考にしてください。

デンケン・ハイデンタル「ハイトーチ」使用の場合		高周波铸造機使用の場合	
① ハイトーチに「L」チップを取り付けてください。 ② ガスバルブを開いて着火。 ③ 圧力計OUT側（ハイトーチ側）の酸素ゲージを0.4MPa（4.0kg/cm ² ）に調節してください。 ④ 太い炎を出して内炎（青い炎）を約8mmの長さになるよう調節して下さい（やかましい位の音がするまで調整する。） ⑤ 金属からチップ先端まで約30mm離して加熱開始してください。 ⑥ 金属が全体に赤熱し、炎の当りが強い部分から熔け始めます。 ⑦ 炎をずらして未熔解部分に炎を当てて全体を熔かしてください。 ※ バネ系铸造機の場合は、バネを最大に巻いてください。（Co-Cr合金は貴金属合金に比べ比重が軽いため铸造圧を上げる必要があるため。）		<ダイレクト铸造法> ① 金属の下部より熔け出す為、上部の未熔解金属を石英棒で強制的に押し込みながら熔解する。 ② 金属全体が同じ赤色になり熔けて一塊になる。	
		上顎 肉薄タイプ	下顎 肉厚タイプ
		③ 一塊になってから7秒後に铸造する。	③ 一塊になってから4秒後に铸造する。
注意 *熔解中にブローパイプのノズルを近づけすぎると返り火によるバックファイアを起こし、金属が飛び散り危険です。近づけすぎないように注意して熔解すること。		<一塊铸造法> ① 金属の下部より熔け出す為、上部の未熔解金属を石英棒で強制的に押し込みながら熔解する。 ② 金属全体が熔け、一塊にしてから、一旦電源をOFFにして、30秒放置冷却する。 ③ 再び電源をONにして加熱を開始する。辺縁より赤熱し、中央に向かって黒点（暗赤色）が消える。	
上顎 肉薄タイプ	下顎 肉厚タイプ	上顎 肉薄タイプ	下顎 肉厚タイプ
⑧ 形が完全に崩れたら直ちにキャストしてください。	⑧ 形が90%崩れた時点でキャストしてください。	④ 中央の黒点が消えてから7秒後に铸造する。	④ 中央の黒点が消えてから5秒後に铸造する。

〔注意〕湯の表面が回転するとオーバーヒートになり鑄肌が荒れる場合があります。回転するまでにキャストして下さい。

- ⑫ 冷 却 ……室温徐冷してください。
- ⑬ 酸化膜除去 ……デンケン・ハイデンタルの自動循環式サンドブラスター「アットブラスター」と「アルミナ250μ」を使用してサンドブラストしてください。埋没材・酸化膜の除去作業を自動で行います。
- ⑭ 電 解 研 磨 ……デンケン・ハイデンタルの電解研磨器「デン・ピカ」と「電解研磨液」を使用して電解してください。
- ⑮ 研 磨 ……※ハイバレル自動研磨法／デンケン・ハイデンタル「ハイバレル」使用説明書通り行ってください。ゴムホイールから艶出しまで自動的に研磨できます。
※手動研磨法／裏面コバルトクロム研磨工程表を参照してください。
- ⑯ ろう着・修理 ……デンケン・ハイデンタル「コバルト・ソルダーⅡ」と「スーパーフラックス」でろう着、修理してください。
デンケン・ハイデンタル「O2トーチOT3000（極細マイクロトーチ）」を併用すると便利で簡単です。
- ※ 湯残の再利用 ……埋没材及び酸化膜等の異物をサンドブラストで完全に除去してから新品を等量加えて使用してください。



デンケン・ハイデンタル 株式会社

〒607-8187 京都市山科区大宅石郡町130
TEL 075-574-1000 FAX 075-571-5000